

第 167 回南極地域観測統合推進本部総会

議事の記録

1. 日時： 令和7年10月27日（月）16:00～17:40

2. 場所： オンライン開催

3. 出席者：

（委員）

坂本修一	文部科学省研究開発局長
河瀬和重	国土地理院長
野村竜一	気象庁長官 （代理：平石直孝 環境・海洋気象課長）
瀬口良夫	海上保安庁長官 （代理：森下泰成 海洋情報部沿岸調査課長）
石川尚人	国立大学法人富山大学都市デザイン学部地球システム科学科 教授
宇都正太郎	国立大学法人北海道大学北極域研究センター 研究員
大城和恵	社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院 医師
小山内康人	国立大学法人九州大学 名誉教授
塩川和夫	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学宇宙地球環境研究所 長
高村ゆかり	国立大学法人東京大学未来ビジョン研究センター 教授
瀧澤美奈子	科学ジャーナリスト
福井学	国立大学法人北海道大学低温科学研究所 特任教授

（幹事）

中川勝広	国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所長
布施吉章	外務省国際協力局地球環境課長 （代理：北尾るみ子 国際協力局地球環境課主査）
古田裕志	文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当）
大土井智	文部科学省大臣官房総務課長

常盤木 祐 一	文部科学省大臣官房会計課長
三 宅 隆 悟	文部科学省研究開発局海洋地球課長
野 木 義 史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長
榎 本 浩 之	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副 所長
伊 村 智	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副 所長
堤 雅 基	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副 所長
木 庭 愛	厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長 (代理：駒井清匡 健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策 課長補佐)
松 田 竜 太	水産庁増殖推進部研究指導課長 (代理：廣江豊 水産庁増殖推進部研究指導課水産研究専門 官)
井 上 剛	国土交通省総合政策局技術政策課長
長谷川 裕 之	国土地理院企画部長 (代理：宮下妙香 企画部国際課長)
沼 尻 誠	気象庁総務部総務課長 (代理：久光純司 大気海洋部環境・海洋気象課南極観測事務 室長)
上 手 研 治	海上保安庁総務部政務課長 (代理：新崎泰弘 海洋情報部沿岸調査課長補佐)
西 村 学	環境省自然環境局自然環境計画課長
光 畑 和 典	防衛省人事教育局人材育成課長 (代理：大森紀興 防衛省人事教育局人材育成課人材育成室 長)

4. 議 事：

- (1) 坂本文部科学省研究開発局長より挨拶があった。
- (2) 事務局より、当日の議題・配布資料について確認があった。議題10～12については、人事に関わる案件のため、運営規則に基づき非公開の取扱いとすることになった。
- (3) 以下の議題について報告及び審議がなされ、審議事項については原案のとおり了承された。なお審議事項9についてはいただいた御意見を踏まえて後日修正し、メールで委員に報告することとした。

《報告事項》

1. 南極条約協議国会議（ATCM）の状況について
2. 南極観測実施責任者評議会（COMNAP）の状況について
3. 第66次観測隊越冬隊の現況について
4. 令和8年度南極地域観測事業概算要求の概要について

《審議事項》

5. 第67次南極地域観測隊行動実施計画（案）等について
6. 南極条約第7条5に基づく事前通告のための電子情報交換システム（EIES）について
7. 令和7年度外国基地派遣について
8. 南極地域観測第X期6か年計画外部評価書（中間評価）（案）について
9. 次期輸送体制の検討について
10. 第67次南極地域観測隊同行者（案）について
11. 第68次南極地域観測隊長及び副隊長（案）について
12. 南極地域観測隊におけるハラスメント対応方針（案）について

《その他》

13. 南極地域観測70周年記念事業について

主な意見は次のとおり。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">報告1. 南極条約協議国会議（ATCM）の状況について報告2. 南極観測実施責任者評議会（COMNAP）の状況について報告3. 第66次観測隊越冬隊の現況について報告4. 令和8年度南極地域観測事業概算要求の概要についてその他. 南極地域観測70周年記念事業について |
|---|

【宇都委員】

COMNAPの件で一つお伺いしたいことがある。資料2、8ページ、専門家グループ会合にて航空機・船舶向けの代替燃料についての議論がこれから行われると書かれているが、これは今後の船舶や航空機の運用上、どのような燃料を使うかということで非常に重要な項目に

なる。ここでの議論でどのようなことが重点的に話されるのか、あるいは今現在この辺が問題だと認識されているようなところがあれば教えていただきたい。

【橋田国立極地研究所南極観測センター副センター長】

南極に限らず、船舶、航空機においては、カーボンフットプリント等の観点から植物を起源とするような代替燃料や SAF 等について、様々な可能性や、実際にそれを使用しているといった情報はあつた。南極に関しても当然ながら燃料について、航空機・船舶、あるいは基地でも、情報共有を行いたいという声は各国の南極観測事業実施責任者からも出ている。実際に航空機で使う場合、どこで燃料を製造しているかがポイントとなる。航空機は、ケープタウン、ホバート、クライストチャーチ、プンタアレナスといったゲートウェイ都市と呼ばれる、南極に向かう航空機や船舶が最後に補給を行う都市で入手が必要になる。しかし、実際にそういった燃料を用意できる場所は現在南半球にはないため、ゲートウェイ都市への輸送が必要になってしまう。そういったことが議論されている。また、例えば航空機では、そういった燃料で安全に航空作業が行われることの保障ができないと実際に運用はできない。実際に運用した例も航空機でオペレーターは1社あるものの、実際ベース、現実ベースの情報は少ない状況。船舶ではまだ事例はない。まだ緒に就いたばかりというところではあるが、今後定期的に検討や調査を行っていききたいということが COMNAP での議論の状況である。

【瀧澤委員】

現在の海氷状況については、必ずしも気温の高温状態とは関係がなく、荒天によりこのような状況になるというのも結構あり得るのか。今までこの委員会に出ていて、氷山がという話はあまりなかったように記憶している。

【伊村国立極地研究所副所長】

これまでこのような状況を私もあまり聞いたことがない。これは明らかに局所的な問題だと思つていて、割れた氷がたまたま流れ着いてしまったということで、今回少々運が悪かつた感じはする。

審議 5. 第 67 次南極地域観測隊行動実施計画 (案) 等について

審議 6. 南極条約第 7 条 5 に基づく事前通告のための電子情報交換システム (EIES) について

審議 7. 令和 7 年度外国基地派遣について

審議 8. 南極地域観測第 X 期 6 か年計画外部評価書（中間評価）（案）について

（特に異議なし）

【三宅文部科学省研究開発局海洋地球課長】

本件、御了承いただいたものとして決定したい。御審議に感謝する。

（審議 9. 次期輸送体制の検討について）

【福井委員】

御説明を伺い大きな動きになっていると理解した。近々に迫ってくる気候変動に伴ういろいろな影響が出ており、南極からの観測を継続することは非常に重要だと私は思う。南極の観測において、越冬及び夏も含めて、研究観測で参加している隊員は経験豊富な隊員もいれば、初めて参加する隊員もいる。南極という環境では、生死を分けるような非常に危険なところで観測をすることも十分にあるため、やはり安全を重要視してほしい。夏と越冬を両方組み合わせて観測していくことが重要だが、人の安全確保という意味では、現在の海上自衛隊が「しらせ」を運航していることは非常に重要で、何かあったときにレスキューができるという体制は重要かと思う。そういった観点からも南極観測事業の継続を検討していただければと思う。

【三宅文部科学省研究開発局海洋地球課長】

いただいた御意見及び輸送計画委員会、観測・設営計画委員会での御意見を踏まえて適宜修正し、後日御報告させていただく。御審議に感謝する。

（4）事務局から、次回の総会は令和 8 年 6 月を予定しており、それまでの間緊急を要する案件などについては本部連絡会に一任いただく旨の連絡があった。

—了—